

レジリエント部門

熊本地震におけるマンホールトイレの活用

熊本市



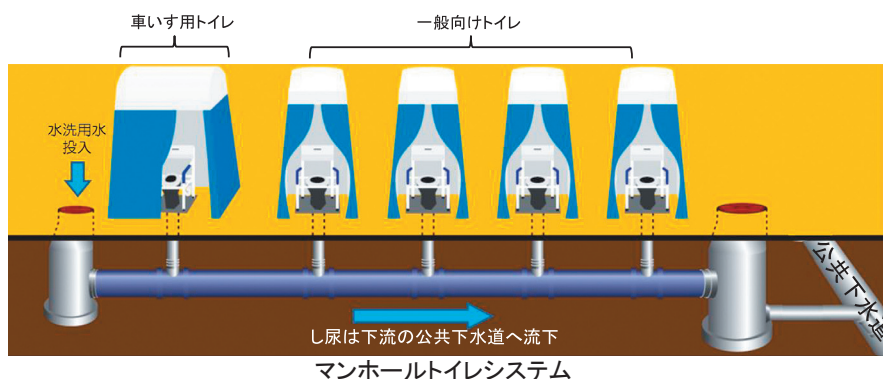
マンホールトイレ利用状況



ボランティア等によるトイレ用水の運搬



車いす用トイレ



PRポイント!

熊本市では、地域防災計画で避難所として位置づけられている下水道計画区域内の38校の中学校を対象に、マンホールトイレの整備を行っています。

「平成28年熊本地震」発災直後は、市内全域で断水し、開設された多くの避難所でトイレ用水の供給が断られました。そうした状況を受け、本震翌日には、上下水道局職員により既に整備された4校の中学校に、マンホールトイレ(全20基)を設置しました。設置後は、トイレ用水としてプール水等を利用するため、**ボランティアの方々や学校関係者の皆様のご協力をいただきました**。また、当局職員による定期的な点検、使用状況の把握に努め、マンホールトイレの運営にあたりました。

マンホールトイレは洋式トイレで段差も無く、車いす用も利用しやすいことから、**水道復旧後も使用を継続する避難所もあるなど利用者の皆様から好評でした**。

Key Person



管路維持課長
白岩 武樹

本市は、地域特性として「地震」災害よりも、「風水害」や「火山活動」による災害に対する意識が高く、当初、下水道総合地震対策の取り組みであるマンホールトイレ整備は、関係者の理解が薄かったと感じました。そのような中、下水道部局が主となり整備計画を策定し、関係部局の協力を得ながらマンホールトイレの整備に着手しました。

今後は、「熊本地震」で使用した実績と経験を活かし、マンホールトイレの整備・運営について、地域住民に対して広くPRしていきます。